

## 二〇二四年度入学試験問題

## 国語 (六〇分)

## 注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は24ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。  
解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～41まであります。  
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## 問題一

次の文章は、南木佳士の小説『医学生』の一部分である。今野修三は、妻子持ちの秋田大学医学部の学生であり、以下は修三の夏休みを描いた場面である。これを読んで後の問に答えなさい。

修三にとって夏休みは最大の稼ぎどきだった。夏期講習とシヨウして自宅の塾を昼も開くのである。一年目の夏こそあまり生徒は集まらなかったが、二年目からはふだん塾に通ってくる中学生や親たちの口コミで午前の部、午後の部ともに休みの日曜日以外は満員になっていた。

昨年度の生徒十名の内七名が名門の進学校に合格していたので、修三の塾の評判は上々だったのである。五歳のゆかりと二歳に満たない真一はまだ母親にまわりつくので、講師は修三一人がつとめた。

北国にもかかわらず、秋田の夏は暑かった。午前中三時間、午後三時間、夜二時間の講義を終えてから机に向かい、秋になるとすぐにジッシされる解剖学の口頭試問の勉強をするのだが、つい眠りこけてしまい、妻の澄子に起こされると、顔を埋めていた解剖学の教科書のページは汗でびっしょり濡れていた。そんなに無理をしなくても、と澄子に言われるのだが、修三は自分の記憶力が年とともに低下してきているのをよく自覚していた。実習中、二十歳そこそこの和丸や京子たちが苦もなく覚えてしまっているラテン語の神経や血管の名がなかなか思い出せなかった苦い経験も何度かある。

数学のように論理の上に論理を重ねていく学問ならば、これまでの大学や教師時代に貯め込んだ知識でなんとかなるのだが、医学部で必要とされるのは要するに丸暗記の能力だった。それはたぶん法学部の学生が法律の条文を暗記させられるのとおなじで、医学部というのは実は限りなく文科系に近い学科なのかも知れない、と修三はうらみがましく思い始めていた。

経済的に落第は許されない修三にとって、いかに苦手でも、胸鎖乳様突筋(ムスクルスステルノクライドマストイデウス)や中間足背皮神経(ネルブスクタネウズドルザリスメディアリス)などという術語を呪文のように唱えて丸暗記せざるを得なかった。

平日は子供たちをどこにも連れて行ってやれないので、日曜日には必ず家族全員で海に行った。秋田駅から電車に乗って十五分ばかりのところを下浜という海水浴場があった。あまり広くはないが遠浅で空いており、家族で遊ぶには絶好の浜であった。

千葉の漁村で生まれた修三にとって、海とは陽が昇るところであり、陽は山の方に沈むものであったが、日本海では陽は海に沈んだ。なんでもないことのようにだが、水平線に沈む夕陽は故郷を遠く離れてまだ宙ぶらりんの身でしかない自分の存在の不安定さを足元から照らし出しているような気がして、修三はなんとなくもの寂しい気分になった。

しかし、子供たちは沈む夕陽が大きな円弧を描く水平線にかかる雄大な光景を見るのが好きらしく、長女のゆかりは夕方になるとい

つも浜に立ちつくして哲学者のような顔で夕陽を見つめていた。真一は、あそこまで泳ぐ、と止める澄子の手を引っぱって海に入ろうとしていた。(中略)

海からの帰りには秋田駅前のファミリーストランで夕食をとった。週に一回のささやかな贅沢ぜいたくだった。

「最初は不安だらけだったけど、なんとかなりそうね」

真一の口をナプキンで拭く澄子の顔がほころんでいた。

「そうだな。なんとかなりそうだな」

修三はカレーを食べて額に吹き出た汗を肘で拭った。

「人間で、健康で働いてればどうにかなるものなのね」

澄子は A ラーメンのスープをすすった。

「健康ってなあに」

アイスクリームを頬張ほおぼったゆかりが修三の顔を見上げた。

「健康ってのはさ、丈夫で死なないことさ」

修三はゆかりの頭に手を置いた。

「じゃあ、ずっと健康ならずと死なないの」

ゆかりの理屈っぽいところは父親似らしかった。

「いや、お父さんもお母さんもいつかは死ぬさ。死ぬときまで丈夫だったら健康なんだよ」

修三はふと、鼻の奥に忘れかけていた死体のホルマリンの臭いを思い出していった。

解剖実習を終えてから、こんな体験がたまにある。それはたいてい一家団欒だんらんのときで、なんとかなりそうだな、と心身ともにリラックスしている場に限られていた。

生徒の死を前にして己の無力さを思い知らされて医者になろうと決めた修三だったが、解剖実習に入る前までは、死が自分の人生の先に待ち構えている絶対的な事実なのだ意識したりはしなかった。あの枯れ木のような死体は、これから数十年後の、あるいは明日の自分の姿なのかも知れない。幸福感にひたついているときにふいに訪れる冷えた風のような予感よかんは、解剖実習が修三に残した善悪不明のクワイ症グワイ症であった。

「お父さんやお母さんが死んでも、今度はゆかりの子供たちが大きくなって、そのまた子供たちが子供を生んで、そうやって人間は

生き続けていくのよ」

澄子が黙ってしまった修三に代わってゆかりに答えてやった。

「でも、お父さんがなろうとしていられるお医者さんは病氣の人を治して丈夫にしてやる仕事でしょう。そうしたら、丈夫になった人はやっぱり死なないと思うけどな」

ゆかりは母親似の大きな目でじっと修三を見た。

「そこんところはなあゆかり、お父さんにもよく分からないんだ。医者になってみないと分からないんだよな」

修三は苦笑しながらゆかりの柔らかな頬を突いた。

真一は母親の胸に抱かれて安らかに眠ってしまった。

それにしても、この年の秋田は暑かった。

夜、机で寝てしまい、澄子に起こされると修三は顔を洗い、下着を着替えてまた机に向かい、ぶ厚い解剖学の教科書とカクトウした。この先、生理学、組織学、微生物学、生化学、薬理学などの基礎医学実習が控えており、学年が進むにつれて内科をはじめとする臨床各科の講義と実習が待っている。そのスタートである解剖学の試験でつまずくと、後々の勉強計画までひびいてくるし、ひいては家の経済状態の悪化にもつながる事態になるので修三は必死だった。夏休みの間で修三が解剖学の教科書を開かなかったのは八月初旬の竿灯祭に出かけた一夜だけだった。

これまでの二年間は祭を見に行く余裕などなかったが、今年はゆかりと澄子までが行きたがったので、その夜だけ塾は休みにした。東北三大祭の一つだけあって、竿灯は思っていた以上に盛大な催しであった。

城跡の千秋公園前の通りを、長い竹竿に提灯をたくさん並べた竿灯を持った男たちが練り歩く。修三はゆかりを肩車し、澄子は真一を肩車して堀端の歩道から見物した。秋田にこれほど多くの人間がいたのかと驚くような人出だった。

「秋田も都会なんだね」

頭の上で B ゆかりが言った。

「そうだな。こんなに人がいたんだな」

もう二年半も住んでいるのに、修三の知っている秋田は家と大学のシユウヘンだけだった。

「伝統のあるお祭を見ると、なんだかこの土地に住んで行くんだぞっていう自信のようなものが湧くわね」  
澄子の大きな目を提灯の灯りがうるんだように照らしていた。

竿灯の灯りが堀の水面に映り、ゆるやかな風が起こしたさざ波にゆれていた。

「こんなにたくさんさんの灯りだったら宇宙からも見えるよね」

ゆかりは照明の消された大通りの上に広がる暗い空を見上げた。

「たぶん、空の星になっっている死んだ人たちからも見えるようにこんなにたくさんさんの灯りを上げてるんだよ」  
竿灯の由来など知らない修三は勝手な造り話をして聞かせた。

「通信だね」

ゆかりは少し C 修三の髪の毛を強くつかんだ。

「よく知ってるなあ。そうだよ、通信だよ」

本ばかり読んでいるゆかりは、ときどき思いがけない単語を口にして修三を驚かせる。

「通信できるんだったらさあ、やっぱり死んだ人は宇宙では生きてるんだね」

ゆかりの声は自信に満ちていた。

「そうかも知れないな。そう考えた方がいいのかも知れないな」

暗闇の中にゆれる提灯の数の多さに圧倒された修三は正直な感想を述べた。

「だったら、ゆかり、死ぬの怖くないな」

ゆかりが D 髪の毛をつかむ手の力をゆるめるのが分かった。

「ゆかりはどうして死ぬことなんか考えたんだい」

「だって、エサ当番の日に幼稚園に行ったら、さくら組で飼ってたウサギさんが死んじゃってたんだもん。先生が、生きてるものは必ず死ぬんだよって言ったんだもん……」

<sup>m</sup> ゆかりの涙だろうか、なまあたたかきものが修三の首筋に落ちた。

修三はゆかりを降ろし、あらためて胸にしっかりと抱き上げてやった。

竿灯の列は果てしなく、そんな親子を照らしながら通り過ぎていった。

(南木佳士『医学生』による)

(注) 和丸や京子たち……修三の同級生たち。

問一 傍線部 a・b・g・i・l と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。解答番号は 

1
---

 5。

a「シヨウして」

- 1 カメラのシヨウジユンを合わせる。
- 2 郷土の文化をデンシヨウする。
- 3 彼はピアノのキヨシヨウといわれている。
- 4 子どもをアイシヨウで呼ぶ。

b「ジツシ」

- 1 成績を急に上げるのはシナンのわざだ。
- 2 選手たちはシキを上げるために声を上げた。
- 3 シセイ方針について首相自ら説明をおこなった。
- 4 上司のシジを受け、転勤することになった。

g「コウイ症」

- 1 イシツ物について問い合わせる。
- 2 この公文書にはサクイの跡が見られる。
- 3 旧役員のイロウ会を計画した。
- 4 仕事の一部を業者にイタクすることにした。

i「カクトウ」

- 1 魚介類のランカクが問題となっている。
- 2 その力士は、土俵でカクの違いを見せつけた。
- 3 労働環境のカイカクを進める。
- 4 先日、ソカク人事が発表された。

1「シユウヘン」

- 1 ヘンキョウの地でたくましく生きる。
- 2 ガラスのハヘンで指を切る。
- 3 ヘンケンを持たずに相手と接する。
- 4 フヘンの真理を追求する。

問二

傍線部 c・d・e・k の語句の意味はなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

解答番号は

6

9

c「二十歳そこそこ」

- 1 二十歳ちょうど
- 2 二十歳にまだ満たない
- 3 二十歳をこしたばかり
- 4 おおよそ二十歳ぐらい

d「術語」

- 1 概念的な語
- 2 ラテン語からの翻訳語
- 3 専門用語
- 4 身につけなくてはならない語

e「遠浅」

- 1 遠くの沖の方の水が特に浅くなっていること
- 2 岸から遠くの沖の方まで水が浅いこと
- 3 沖に近づくにしたがって水が浅くなっていること
- 4 水の浅い地点と深い地点がバランス良く散在していること

k「練り歩く」

- 1 行列を整えて歩く
- 2 何の目的もなくぶらぶらと歩く
- 3 にぎやかに歩く
- 4 荘厳な様子で歩く

問三

傍線部 f「なんとかなりそうね」とあるが、どのような意味か。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。

い。解答番号は 。

- 1 修三の塾の評判が良く、経済的な安定が期待できそうだとということ。
- 2 修三が留年せずに医者になれる見通しがつきそうだとということ。
- 3 修三が苦学していても、家庭生活が成り立ちそうだとということ。
- 4 夫婦で塾を営むことで、秋田での生活になじめそうだとということ。

問四

空欄   にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 。

- |   |   |       |   |         |   |        |   |       |
|---|---|-------|---|---------|---|--------|---|-------|
| 1 | A | しみじみと | B | 驚いたように  | C | 疲れたように | D | おもむろに |
| 2 | A | しみじみと | B | 感心したように | C | 得意げに   | D | ほっとして |
| 3 | A | 淡々と   | B | しみじみと   | C | 乱暴に    | D | 得意げに  |
| 4 | A | 淡々と   | B | 得意げに    | C | 無愛想に   | D | 急に    |



問五 傍線部h「黙ってしまった修三」とあるが、それはなぜだと思われるか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 12。

- 1 死の本質を突くゆかりの質問に対する適当な答えが見つからなかったから。
- 2 かつて、生徒の死を前にして己の無力さを思い知らされたことを思い出したから。
- 3 自分に似て理屈っぽいゆかりの質問に答えることに疲れてしまったから。
- 4 解剖実習の後、家族との団欒の時間に、死を自分事として感じるようになってしまったから。

問六 傍線部j「竿灯祭に出かけた一夜」とあるが、この「一夜」は修三にとってどのような意味を持つか。次の1～4のうちから適当でないもの一つを選びマークしなさい。解答番号は 13。

- 1 肉体の死という現実にとらわれてきた修三だが、竿灯祭を通じて、死者と生者の魂のつながりの可能性に気づいた。
- 2 科学的知見から死にアプローチしてきた修三だが、娘との対話で死者も別の領域で生きているという考え方に触れた。
- 3 土地の伝統や竿灯祭の由来を家族で共有することで、死について家族と語り合い、固定観念から脱却することができた。
- 4 この土地で生きる自信を強めた妻、死について深く考えている娘との絆が深まり、修三自身も新たな死生観を得た。

問七 傍線部m「修三はゆかりを降ろし、あらためて胸にしっかり抱き上げてやった」とあるが、この場面の修三の気持ちはどのようなものか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 14。

- 1 ウサギとの死別の悲しみから死について深く考えるようになった娘の心の痛みに寄り添ってあげたいという気持ち。
- 2 それまで、ウサギの死の悲しみについて打ち明けられることはせず、祭りという非日常空間でやっと胸のうちは告白した娘の気丈さを褒めてあげたい気持ち。
- 3 哲学者のような顔で海に沈む夕陽を見つめていたゆかりが、実はウサギの死について考えていたことに気づき、娘の傷心に気づかなかったことを謝りたい気持ち。
- 4 ウサギの死に心が傷ついた娘が、愛する者との次なる別れにおびえていることに気づき、安心させてあげたいという気持ち。

## 問題二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「十人十色」という言い方がある。地球上にホモ・サピエンスが登場して以来、古今東西、この世には数え切れないほどの人々が生まれ、死んでいった。いや、「数え切れない」という表現は正確ではない。それは「無限」という意味ではなく、単に技術的に数えられない（旧石器時代に戸籍制度はなかった）だけであって、生まれてきた人の数は有限である。そしてこの先、いつか迎えるであろう地球滅亡のその時点までに、地球上に存在するであろう人をすべて含めても、その数は有限である。

この地球上にこれまでに生まれ、これからも生まれるはずの人々まで含めてそのすべてを比較したとき、あなたと遺伝的に同じ条件で生まれる人は、一卵性双生児のきょうだいを除いて、誰一人としていない。それはひとえに、生物には遺伝的多様性が、種と種の違いだけでなく、人と人の間にもあるという普遍的な生物学的事実による。そして、その遺伝的な違いが、姿かたちだけでなく、パーソナリティや能力の発揮のしかたにおいても、一人ひとりまったく異なる差異の源となっている。そのおかげで社会にはダイナミズムが生まれ、文化の源ともなっている。その意味を読み解くのが本書の目的である。

と、高らかに宣言しておきながら、実のところ、ヒトは遺伝的にほとんど同じである。なぜなら遺伝現象を担う物質DNA（デオキシリボ核酸）をつくりあげている四つの塩基、A（アデニン）、T（チミン）、C（シトシン）、G（グアニン）の配列を一人ひとり比べてみると、九九・九%まで等しいからだ。このことは二〇〇一年に<sup>d</sup>（注2）終結したヒトゲノムプロジェクトの成果として、クレイグ・ベ<sup>e</sup>（注3）ンターによって報告された興味深い結果だった。ホップズが一七世紀に『リヴァイアサン』で述べていたことが、分子生物学から「実証」されたのである。

ホップズの洞察はこうだ。

《自然》は人間を身心の諸能力において平等につくった。したがって、ときには他の人間よりも明らかに肉体的に強く精神的に機敏な人を見いだされはするが、しかしすべての能力を総合して考えれば、個人差はわずかであり、ある人が要求できない利益を他の人が要求できるほど大きなものではない。たとえば肉体的な強さについていえば、もつとも弱い者でもひそかに陰謀をたくらんだり、自分と同様の危険にさらされている者と共謀することによって、もつとも強い者をも倒すだけの強さを持っている。（『世界の

名著 23 ホップズ「リヴァイアサン 第一三章」永井道雄／宗片邦義訳 中央公論社

彼は多様な個人差を認めながら、それを包み込む同一性に目を向け、そして個人差を持った者たちが協力しあって成立する社会（それが「リヴァイアサン」だ）まで想定している。試みに、四〇〇年前のこの洞察を、現代遺伝学の目で解き明かしてみるとどうなるだろうか。

DNAの圧倒的に大きな同一性から示唆されるのは、人間の能力の発揮のされ方にも個人差以上に圧倒的な同一性、同形性があるということである。

これまでに数えきれないほどの人間が、野球という競技に取り組んできた。その中には、プロの選手として大成し、「野球殿堂」入りという榮譽を与えられた名選手も数多くいた。しかし、これまでは大谷翔平(注4)のような、日本人として生まれながらアメリカのメジャーリーグにおいて、投打二刀流で数々の偉業を成し遂げた選手はいなかった。「野球の神様」といわれたベーブ・ルース(注5)の記録をも彼は塗り替えてしまったのだ。

しかし、ボールを投げるだけなら、ただ棒を振るだけなら、三歳児にだってできる。少し練習さえすれば、キャッチボールや草野球を楽しむ程度のことだって誰でもできるだろう。その中には「おれもいつか未来の大谷翔平になる」と熱い心を秘めている野球少年もいることだろう。

ホップズの言葉を遺伝学的に拡大解釈すれば、これはすべて、「遺伝子」という自然が、人間に平等な身心の諸能力を与えているからだ。ハエやミミズにそんな芸当も理解もできない。そもそもミミズもハエもボールを見てわれわれ人間と同じように野球のための道具だとは認識すらしていない。ハエは地面の上の石ころとしか見ないかもしれないし、ミミズはおそらく邪魔物としてよけて通るだけだろう。私たちが野球を楽しむことができ、大谷選手の活躍を見て心を動かされ、なかには自分もやってみたいと心を熱くする人も生まれてくるのは、ヒトをつくり上げている無数の生物学的システムにおいて、大谷選手とあなたとの間に九九・九%の圧倒的な遺伝的共通性があるからだ。美と強靱(きょうじん)さだけでなく高い精神性まで感じさせてくれるスケートの(注6)羽生結弦(はにゅうゆうづる)にしても、伝統ある将棋の歴史を次々と塗り替え史上最年少で七冠を達成してAI時代の新しい棋士像を飄々(ひょうひょう)と魅せてくれる藤井聡太(ふじのさと)にしても、われわれとの塩基の(h)違いは〇・一%にすぎない。

あなたも人並みに掃除や片づけをするだろう。掃除や片づけなどは、通算五〇〇個以上の三振を奪うこととは違い、やれといわれれば誰でもできそう。そう思えるのも九九・九%のDNA配列の同一性のなせるわざである。しかしその成果を見比べてみれば、ヒトによってどれだけ手際よくきれいにできるか、どれだけきれいな追求するかには、天と地ほどの開きがある。誰もが新津春子(注8)や(注9)こんまり(こんどり)（近藤麻理恵(こんどうまりえ)）のようにそれを極められるわけではない。

野球ができることと掃除ができることを同列に論じていいのか。これについては第二章で、能力をどのように考えるかについて述べるが、結論から言えば、生物学的には同次元の話である。もし違うと感じるとしたら、単なる社会的文脈の違いやあなたの価値観との違いにすぎない。

残虐な殺人事件をメディアで目の当たりにすると、人々は「なぜこんなことをするのかわからない」と嘆きや怒りの言葉を口にする。しかしほんとうに「わからない」のではない。「わからない」と嘆くとき、多くの人は、すでに「ひよつとしたら、こんな事情があったからじゃないだろうか」「こんな性格だったからじゃないか」と、さまざまな仮説を思い浮かべているはずだ。わからないのは、そのうちのどれが正解なのがわからないのだ。だからこそ、なぜそんなことをしたのか知りたがる。つまり、どのような答えが考えられるのかは、ほぼ「わかって」いる。それができるのは、基本的に遺伝的な同一性を誰もが持っているからである。

もちろんそれは、同じ文化的経験を共有しているからでもある。しかしミミズやクモやイモリなど、ヒト以外の動物がなぜそんな行動をするのがわからないのとはまったく違うという意味で、ヒトには遺伝的に大きな同一性があり、潜在的に同じヒトのすることを理解でき、真似事まねごとをすることすらできるといふ事実は、驚くほど無視されている。

これから本書が描くヒトの能力の遺伝的差異を考えるうえで、その前提として、いま述べてきたような意味での遺伝的同一性を踏まえておくことは重要だ。ヒトの遺伝的差異は、遺伝子の圧倒的同一性という大海の上に浮かぶ小島ほどの形の違いでしかないのだ。

されどそれは、一人ひとりの人生にとつて大きな意味をもつのである。

なぜ多くの人は、大谷翔平や藤井聡太や新津春子やこんまりのような卓越した能力を獲得できないのか、なぜある人は残虐な犯罪を犯してしまうのか。それはそこに、DNAの塩基配列の〇・一%の違いがからんでいるからである。人の能力や心の働きは、DNAによつて「完全に決まっている」わけではない（このことは最初に強調しておこう）。しかし遺伝子の差は、重要な個人差の遠因になっている。そのことを、これから行動遺伝学が明かしてゆく。野球能力や掃除能力の行動遺伝学的研究こそなされていないが、これまでになされた膨大な数の研究から、そのことはかなり高い確信度を持って言い切ることができる。それについては、第三章で紹介する行動遺伝学の十大発見の一番目「あらゆる行動には有意で大きな遺伝的影響がある」の説明までお待ちいただきたい。

（安藤寿康「能力はどのように遺伝するのか」「生まれつき」と「努力」のあいだ」による）

(注)

- 1 クレイグ・ベントナー……アメリカの分子生物学者、実業家(一九四六)。ゲノム研究と、それを利用した起業家としても有名。
- 2 ホップズ……トマス・ホップズ、イギリスの哲学者・政治思想家(一五八八―一六七九)。自然学・人間学・政治学の三部からなる壮大な哲学体系を構想した。著者に『法学要綱』、『市民論』、『リヴァリアサン』などがある。
- 3 『リヴァリアサン』……トマス・ホップズが一六五一年に著した政治哲学書。民主主義政治理論を進めながら、社会契約論を展開した。
- 4 大谷翔平……岩手県水沢市(現、奥州市)出身のプロ野球選手(一九九四)。北海道日本ハムファイターズからメジャーリーグのロサンゼルス・エンゼルスに移籍。シーズンを通して投手と打者を兼任する二刀流の選手。
- 5 ベーブ・ルース……一九一〇年代から三〇年代にかけてアメリカのメジャーリーグで活躍したプロ野球選手(一八九五―一九四八)。
- 6 羽生結弦……宮城県仙台市出身の元フィギュアスケート選手(一九九四)。オリンピック二大会連続優勝等、国際大会での優勝多数。世界ラネキング五シーズン連続一位を保持していた。
- 7 藤井聡太……愛知県瀬戸市出身の将棋棋士(二〇〇二)。二〇一六年に史上最年少で四段昇段(プロ入り)を果たすと、そのまま無敗で公式戦最多連勝の新記録を樹立。その後、昇段やタイトル戦挑戦と獲得等、多くの最年少記録を塗り替えた。
- 8 新津春子……世界一の清掃員として評価されるカリスマ清掃員(一九七〇)。一九九七年、最年少(当時)で全国ビルクリーニング技能競技会一位に輝く。以降、指導者としても活躍。
- 9 こんまり(近藤麻理恵)……片づけコンサルタント(一九八四)。大学在学中から片づけコンサルタントを開始し、独自の片づけ法を編み出した。

### 問一

傍線部 a「数え切れないほどの人々」とあるが、筆者が伝えたかったのはどのような意味か。次の1～4のうちから最も適当なものを選びマークしなさい。解答番号は 15。

- 1 地球滅亡の時点までに存在する人々。
- 2 無限の人々。
- 3 有限の人々。
- 4 技術的に数えられない人々。

問二 傍線部 b・e・f・i・j の語句の意味はなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。解答番号は 16 ) 20 。

b「ひとえに」

1 まったくもって

2 おそらく

3 たとえば

4 およそ

e「示唆」

1 わからないように隠すこと

2 指し示すこと

3 ほのめかすこと

4 不備などを取り出して示すこと

f「芸当」

1 普通ではできそうもないこと

2 いろいろな芸を身につけること

3 身軽に行うはなれわざ

4 手早く巧みなわざ

i「人並み」

1 変化のないさま

2 平凡で目立たないさま

3 ありふれているさま

4 一般の人と同じ程度

j「目の当たりにする」

- 1 人に見せたりする
- 2 いつも見えていて知っている
- 3 何度も見て、それ以上見るのが嫌になる
- 4 目の前で直接見る

問三 傍線部c「そのおかげ」とあるが、なにのおかげか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号

は 21。

- 1 遺伝現象
- 2 遺伝的多様性
- 3 文化の源
- 4 種と種の相違

問四 傍線部d「ホップズが一七世紀に『リヴァイアサン』で述べていたことが、分子生物学から「実証」された」とあるが、どのようなこ

とが実証されたのか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 22。

- 1 人間には、同一性、同形性以上に圧倒的な個人差があるということ。
- 2 個人差を持った者たちが協力しあうことによって社会が成立するということ。
- 3 人間には、個人差以上に圧倒的な同一性、同形性があるということ。
- 4 この社会は遺伝的多様性のみで成立するということ。

問五 傍線部g「九九・九%もの圧倒的な遺伝的共通性」とあるが、それによってどのような考えを持つ可能性があるか。次の1〜4の

- 1 ボールを見てもなにに使うものかわからない。解答番号は 23。
- 2 おれもいつか未来の大谷翔平になる。
- 3 自分も野球をやってみたい。
- 4 掃除や片づけは誰にでもできそうだ。

問六 傍線部h「塩基の違いは〇・一%にすぎない」とあるが、それにもかかわらず、ヒトによって成果に天と地ほどの開きがあるのは

- 1 塩基配列の差は、高い精神性や新しい棋士像の創出にのみ発揮されるから。解答番号は 24。
- 2 塩基配列の差は、個人差のほんの一面にすぎないから。
- 3 塩基配列の差は、重要な個人差の遠因になっているから。
- 4 塩基配列の〇・一%の差は、他の九九・九%の同一性によって圧倒されてしまうから。

問七 傍線部k「しかしほんとうに「わからない」のではない」とあるが、なぜか。次の1〜4のうちから最も適当なものを一つ選びマ

- 1 残虐な殺人事件の原因や理由がくわしくわかっていても仕方がないから。解答番号は 25。
- 2 さまざまな仮説を思い浮かべ、その中から容易に正解を導き出すことができるから。
- 3 残虐な殺人事件を知ったとき、人々は同じような嘆きや怒りの言葉を口にするから。
- 4 事件を起こした人と嘆きや怒りの言葉を口にする人とは、基本的に遺伝的な同一性を持っているから。



問八 傍線部「驚くほど無視されている」とあるが、なぜ「無視されている」と考えられるか。次の1～4のうちから最も適当なものを

一つ選びマークしなさい。解答番号は 26。

- 1 人々は、ヒトの多様な個人差の結果の方ばかり注目しているから。
- 2 人々は、ヒト以外の動物の行動の方ばかり注目しているから。
- 3 人々は、ヒトの遺伝的な多様性よりも同一性の方ばかり注目しているから。
- 4 人々は、ヒトが同じ文化的経験を共有していることの方ばかり注目しているから。

問九 傍線部m「一人ひとりの人生にとって大きな意味をもつ」とあるが、どのような点で大きな意味をもつのか。次の1～4のうちか

ら最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 27。

- 1 ヒトの遺伝的同一性によって卓越した能力を獲得できるという点。
- 2 ヒトの遺伝的差異によって卓越した能力を必ず獲得できるという点。
- 3 ヒトの遺伝的同一性では卓越した能力を獲得できないという点。
- 4 ヒトの遺伝的差異が卓越した能力を獲得できるかどうかに影響するという点。

### 問題三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人は子供から大人になり、そして老人になります。子供から大人へと移行する思春期には、ほとんどの人が自我の成長にともなって「自分は何をしたのか」、さらには「どんな大人になりたいか」について考えるものでしょう。

でも、大人から老人へと移行する「思秋期」(私の造語です)とも呼べる時期に、「<sup>a</sup>どんな老人になりたいか」について考えている人は、あまりいいのではないのでしょうか。「いつまでも若くありたい」「老人になりたくない」。いまの日本では、多くの人がそう思っています。

一方、欧米では、たとえば映画の世界を見ても、クリント・イーストウッドやカトリーヌ・ドヌーヴのように、「<sup>注1</sup>上手に歳をとっている」ように見える人が少なくありません。

私が映画監督として何度か映画祭に招待されて訪れたモナコでは、白髪でしわだらけの老人がフェラーリから降り立つといった光景をよく目にします。それがじつに格好よく、また、<sup>b</sup>それをあこがれとする価値観があることを感じます。

片や、日本であこがれの対象となるのは、たとえば吉永小百合さんのように、「いつまでも歳をとらない」ように見える人です。それが悪いとは思いませんが、そうした風潮も手伝つてか、映画の世界でも、<sup>c</sup>大滝秀治さんや北林谷栄さんのような、老人役の名優と呼ばれる人はほほ見かけなくなりました。

私は、いまの日本には、「こんな老人になりたい」というモデルとなる人がほとんどいないように思います。

たとえば、首相経験者がさつさと政界を引退し、全国を行脚して困っている人の声を聞き、各地で悪を懲らしめる現代版の「<sup>d</sup>水戸黄門」になつていたらおもしろいと思えますが、そんな人がいるという話は聞いたことがありません。

私は、これまで三五年近くにわたり老年精神医学に携わつてきて、いい歳のとり方をする人と、そうでない人がいることを実感しています。歳をとつても、どこか「<sup>e</sup>いじましい」人、すなわち、せこせこして見苦しい人、けちけちして忘れてほしい人がいる一方で、<sup>f</sup>飄々としている人や、老いに対して覚悟を決めているような人もいます。

私自身も六〇代に入り、自分がこれからどんなふうに歳をとっていきたいかを考えるようになりました。そして、「こんな老人になりたい」という三つのモデルが、自分のなかで明確になつてきました。

私になりたいのは、「品のある老人」「賢い老人」、そして「おもしろい老人」です。

誤解のないようにお伝えしておく、私自身が、品のある、賢くて、おもしろい人間だという意味ではありません。私は、『感情的

にならない本」(新講社)を書いていながら、ユーチューブやブログでいつも政治などについて怒り狂っている、と指摘されたりします。ですが、私が本に書くのは、どちらかというと「こうありたい自分」の姿であって、「自分はこんな人間である」という表明ではないのです。

私は老年精神科医として、これまで六〇〇人以上の高齢者を診てきました。そのうえで、私が「こうなりたい」と思う高齢者の姿とはどんなものをお伝えすることが、みなさんにとって幸せに歳をとるためのヒントになるのではと思っています。

私が長年、高齢者と向き合ってきた重要なことの一つは、高齢期には若いころのような上昇志向の価値観は通用しなくなるということです。肩書を得るために必死でがんばってきたても、高齢期になって衰かなしい思いをするケースは少なくありません。

私は、東京大学医学部を出て医師になりました。大学の同級生には卒業後、医局に残って順調に出世し、東大を含めて一流大学の医学部教授になっている人たちが何人もいます。彼らは、世間的にはかなり立派な肩書を手に入れたといえるでしょう。でも、六〇代になつたいま、彼らにバラ色の未来が待っているとはかぎりません。

医局で出世するために、ひたすら上司にあたる教授の言うことを聞いてきたので、結局、画期的な研究成果を残せないまま、退官の時期を迎えようとしている人が多いのです。そのうえ、いまは、昔のように退官後の天下り先がいくらでもあるというわけではありません。

一方で、私立大学の医学部を出た同年代の人たちは、早くから開業し、六〇代のいまはむしろ働き盛りといえるほど、バリバリと仕事をしています。

ちなみに、アメリカでは、教授になってから、みずから力で研究助成金などを獲得し、本格的な研究に取り組めます。つまり、教授になることが研究のスタートラインなのですが、日本では教授がク上がりクのポストなので、教授になったあとはろくに勉強しない人もめずらしくありません。

そういう人は、肩書があつても中身がない、あるいは中身が古いため、定年になって肩書を失ったとたん、何も無い人人になることが多いのです。

<sup>g</sup>この年代になると、肩書より、一人の人間として生きていくことを選ぶほうが輝いて見えます。たとえば、解剖学者(注6)の養老孟司ようろうたけしさんは、東大医学部の教授でしたが、執筆活動が軌道に乗ると、早々にその職を退いて、「養老孟司」としての生き方を選んだのです。だからこそ、現在もなお「養老孟司」でいられるのだと思います。私も五〇代になったころから、「和田秀樹」として生きていきたいと思うよ

うになりました。

私が老年精神科医になったのは、いつてみれば偶然です。大学病院で精神科と内科の研修をしたあと、就職先が決まらなかった時期を経て、高齢者専門の総合病院である浴風会病院（東京・杉並区）の精神科に運よく採用されました。

つまり、はじめて得られた正規職員のポストが、たまたま高齢者専門病院の精神科医であったというだけで、高齢者への思い入れが深かったわけではありません。ただ、幸か不幸か、競争相手の少ない世界で、貴重な発見や出会いにも恵まれ、この世界なら生きていけそうだと感じ、今日までこの仕事を続けてきました。

浴風会病院は、大正時代に貞明皇后の御下賜金をもとに設立された施設の附属病院ということもあり、入院患者には社会的地位の高い人が比較的多くいました。元大臣や、大企業の元社長などもいましたが、その人たちの晩年が恵まれていたかという点、必ずしもそうではありませんでした。

上司に媚びを売って出世したような人は、高い地位を得ても部下からの人望はありません。自分をかわいがってくれた上司たちは、自分より年配なので先に世を去っていきます。一方で、下の世代からは好かれていないので、高齢になって入院しても、誰も見舞いに訪れないというケースがよくあります。

また、私が勤務していたのはバブル期だったので、患者さんのなかには土地の売買でとつもない財産を築いたような人もいました。でも、その財産が、子供たちの壮絶な争いの種となるケースを、少なからず見えました。

老後の幸せは、地位やお金だけで得られるものではないのです。高齢の患者さんと向き合う日々のなかで、そのことを私はひしひしと感じました。

（和田秀樹『老いの品格 品よく、賢く、おもしろく』による）

（注） 1 クリント・イーストウッド……アメリカの俳優、映画監督、映画プロデューサー、作曲家、元政治家（一九三〇〜）。俳優として数多くの西部劇やアクション映画に出演。

2 カトリーヌ・ドヌーヴ……フランスの女優（一九四三〜）。ロジェ・バディム監督の『悪徳の栄え』で注目を浴び、『シエルブルの雨傘』でブレイクした。『ヴァンドーム広場』でベネチア国際映画祭の最優秀女優賞。

- 3 吉永小百合……日本の女優、歌手、ナレーター、司会者、タレント（一九四五～）。一九六二年、『キューボラのある街』で最年少（当時）でブルーリボン賞主演女優賞を受賞。一九八八年の『つるし鶴』に主演し、映画出演は通算一〇〇作品となる。その後も各方面で活躍。

- 4 大滝秀治……日本の俳優、ナレーター、実業家（一九二五～二〇二二）。一九四八年、東京民衆芸術劇場附属俳優養成所に一期生として入所。多くの映画やドラマ、舞台で活躍した日本を代表する名優の一人。

- 5 北林谷栄……日本の女優、声優（一九一一～二〇一〇）。劇団民藝の創設に参加。一九五九年の『キクとイサム』でのブルーリボン賞主演女優賞の受賞をはじめ、各賞の受賞多数。若くから老け役を演じ、「日本一のおばあちゃん女優」と言われた。

- 6 養老孟司……日本の医学者、解剖学者、東京大学名誉教授、医学博士（一九三七～）。著書『ヒトの見方』から、一般向けの文筆活動を開始。『唯脳論』、『バカの壁』、『遺言』など著書多数。

問一 傍線部 a 「どんな老人になりたいか」について考えている人は、あまりいいのではないのでしょうかとあるが、なぜか。次の 1

- 1 「こんな老人になりたい」と考えても、今の日本ではどうにもならないから。
- 2 今の日本には、「こんな老人になりたい」というモデルとなる人がほとんどいないから。
- 3 吉永小百合さんのように、「いつまでも歳をとらない」ように見える人がほとんどいないから。
- 4 映画の世界で活躍している人は、ほとんどが若い人だから。

問二 傍線部 b 「それをあこがれとする価値観」とあるが、「それ」とは具体的にはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当な

- 1 老人になりたくないと抵抗すること。解答番号は 29。
- 2 いつまでも若々しくありたいと努力をすること。
- 3 上手に歳をとるということ。
- 4 いつまでも歳をとらないということ。

問三 傍線部 c・e・i・l・m の語句の意味はなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。解答番号は 

30
----

 ) 

34
----

 。

c 「手伝って」

- 1 他人の仕事を助けて
- 2 原因の一つとなって
- 3 一部を担って
- 4 テコ入れして

e 「覚悟を決めている」

- 1 考えることを後回しにしている
- 2 もうだめだとあきらめている
- 3 心の準備をしている
- 4 後悔の気持ちを持っている

i 「幸か不幸か」

- 1 幸福なことでも不幸なことでもないが
- 2 幸福なことか不幸なことか断定できないが
- 3 不幸中の幸いなことに
- 4 幸いなことも不幸なこともあるが

l 「媚びを売って」

- 1 気に入られるように押しつけて
- 2 気をひくようなふるまいをして
- 3 きげんをとって
- 4 きげんがよくなるよううわさを広めて

m「少なからず」

- 1 たくさん
- 2 少しだけ
- 3 比較的多く
- 4 やや少なく

**問四**

傍線部d「いい歳のとり方をする人」とあるが、それはどのような人か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 35。

- 1 肩書にしがみついている人。
- 2 せこせこして見苦しい人。
- 3 肩書を得るための努力を惜しまない人。
- 4 老いを自然に受け入れている人。

**問五**

傍線部f「彼らにバラ色の未来が待っているとはかぎりません」とあるが、では、どのような未来が待っている可能性があるというのか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 36。

- 1 退官後もバリバリ仕事ができる人になる。
- 2 肩書を失ったとたん何もない人になる。
- 3 上昇志向がなくなり、やる気のない人になる。
- 4 退官後の天下り先が確保できている人になる。

問六 傍線部g「この年代」とあるが、具体的にはどのような年代か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。

い。解答番号は 。

- 1 定年間近の年代。
- 2 立派な肩書を手に入れるために努力している年代。
- 3 バリバリ仕事をしている年代。
- 4 画期的な研究成果を得ようと思っている年代。

問七 傍線部h「養老孟司」としての生き方」とあるが、具体的にはどのような生き方か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ

選びマークしなさい。解答番号は 。

- 1 マスメディアを利用し、有名になった名前によって執筆を続けるという生き方。
- 2 肩書に頼らず、自らの知見で執筆を続けるという生き方。
- 3 元東大教授という肩書を利用して執筆活動をするという生き方。
- 4 解剖学者という肩書によって多くの著作物を出すという生き方。

問八 傍線部j「競争相手の少ない世界」とあるが、具体的にはどのような世界か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選び

マークしなさい。解答番号は 。

- 1 大学病院の医師としての世界。
- 2 精神科の医師としての世界。
- 3 浴風会病院の医師としての世界。
- 4 老年精神科の医師としての世界。



問九 傍線部k「貴重な発見や出会いにも恵まれ」とあるが、どのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 40。

- 1 社会的地位の高い人を患者として診ることができたということ。
- 2 子供たちが財産に関する壮絶な争いをしている患者を診ることができたということ。
- 3 様々な症例や、いろいろな事情を持つ多くの患者を診ることができたということ。
- 4 下の世代からは好かれていないので、誰も見舞いに訪れないような患者を診ることができたということ。

問一〇 傍線部n「老後の幸せは、地位やお金だけで得られるものではない」とあるが、では、筆者はどのようなことが「老後の幸せ」につながると考えているか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 41。

- 1 どんな老人になりたいか、老人になつてからどのように生きたいかを考えること。
- 2 どうすれば歳をとらないかを考え、それを実行すること。
- 3 どうすれば老後に安定した生活が送れるのかを考えること。
- 4 どうすれば中身のある肩書を得ることができるかを考え、それを実行すること。